

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4472600750
法人名	社会福祉法人豊後大野市社会福祉協議会
事業所名	グループホームふれんど
訪問調査日	平成 20 年 3 月 14 日
評価確定日	平成 20 年 6 月 12 日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2008年3月28日

【評価実施概要】

事業所番号	4472600750
法人名	社会福祉法人 豊後大野市社会福祉協議会
事業所名	グループホームふれんど
所在地	豊後大野市緒方町馬背畑1875番地 (電話)0974-42-4415

評価機関名	福祉サービス評価センター大分
所在地	大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成20年3月14日
評価確定日	平成20年6月12日

【情報提供票より】(平成20年2月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月31日
ユニット数	1 ユニット
利用定員数計	6 人
職員数	5 人
常勤	4 人
非常勤	人
常勤換算	4.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	25,500 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	330 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 880 円			

(4) 利用者の概要(平成20年2月23日現在)

利用者人数	6 名	男性	2 名	女性	4 名
要介護1	名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	81 歳	最高	86 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立おがた総合病院 加藤病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. 自然環境が豊かでのどかにゆったりと過ごすことができ、静かな山の中で自由に外に出て散歩を楽しむことができる。
2. 利用者同士で仲がよくお互いを尊重しあい支えあって生活をしている。
3. 地域の方が集まる福祉拠点としての役割が多く、グラウンドや集会所と隣接して利用者が地域の一員として参加している。
4. 保育所やデイサービスと活動していて、異世代間交流が日常的にでき生活にメリハリがある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回外部評価についての改善項目の話し合いを職員と行っているが、今回評価の直前までに改善がなされていない面も多く引き続きの取り組みが望まれる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	全職員で評価の意義と内容を話し合い、自己評価を行って管理者がまとめているので、今後ケアに活かせることが期待される。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	今まで2回開催され、民生児童委員2名、自治委員、市介護保険担当者、利用者代表、家族代表の参加にて開催している。活動報告や外部評価報告などについて話し合い、市担当者より地域密着型としての質の向上のための取り組みや、家族から退去の不安、地域民生児童委員から地域の集まれる拠点としての行事を楽しみにしていることや出前講座の要望など意見が出されている。しかし、意見についての取り組みは反映できていない。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	家族の意見が少ないが、運営推進会議に参加して思いを伝えている。しかし開催回数も少なく出した意見に対応がされておらず、今後の取り組みが期待される。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	山間地域に福祉の拠点として開かれた施設として期待され、グラウンドや集会所が隣接していることで地域の方が集まり利用者はそこへ参加している。また、ホームとしても祭や保育所の運動会に出かけている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型のグループホームとしての理念についての話し合いはされておらず、独自の理念の模索中である。	○	グループホームの職員全員で地域密着としての役割を考え、利用者が地域の中でその人らしく暮らすことについて話し合い、理念に反映することが求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は相互に理念を共有し、日々のケアの中で念頭に置いた取り組みをしている。毎日出勤時に必ず理念を確認して仕事についている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホームと隣接するデイサービスが拠点となり、地域の運動会やグランドゴルフが隣接するグランドで行われており、利用者は玉入れや応援などで参加している。また、山間部で近所が少ないが地域の祭りに出かけ馴染みの関係ができています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善点については取り組みが遅れ課題が残っている。しかし、今回の自己評価に当たっては職員で話し合い、評価の意義も理解して意見を出し合いまとめている。	○	前回の改善課題への継続した取り組みと、さらに評価の意義を理解し、具体的に改善方法を話し合い取り組んでいくことが望まれる。また、自己評価を通してケアのポイントなど全員で学ぶことを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今まで2回開催しており、地域の代表者や家族の代表も参加して、活動報告、外部評価について話し合いをしている。運営推進会議委員より積極的な意見が出され、市担当者から取り組むべき課題が提示されているがサービスの向上に活かしていない。	○	おおむね2ヵ月ごとの定期的な運営推進会議の開催と、参加者がサービスの質の向上や、地域に根ざした活動の要望など具体的提言がされていることに対して、グループホームとして取り組んでいくことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所支所担当者のところへ出向いて行き、利用者の支援のあり方や運営など話し合っサービス質の向上に取り組んでいる。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族に面会に来てもらう機会を作って、面会時に健康状態や日頃の様子を伝えている。体調の悪い時は頻りに連絡を取り合っ、面会の少ない家族に対しては電話連絡をして来てもらうよう声掛けをしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族が意見を出しやすい雰囲気づくりをしているが、家族からの意見は出されておらず、また、運営推進会議に家族も参加して意見を出しているが開催回数が少ないのが現状で、意見を反映させるまでには至っていない。	○	家族が意見を言い合える場や、言いやすい雰囲気づくりの工夫が求められる。また、定期的な運営推進会議で意見を出せる機会の提供とその意見を反映するような取り組みも望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少ないように配慮をしているが、担当職員がやむを得ず異動する場合は事前に利用者や家族へ伝えるようにしている。また、年賀状に職員の顔と名前が一致するように写真を貼り郵送して、家族や利用者に分りやすいよう配慮をしている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が職員を段階に応じた研修に、勤務として積極的に参加させている。研修をしたことは職員間で共有している。今後は法人としてもグループホームの役割やケアについて研修を開く計画である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	豊後大野市地域密着型サービス事業者連絡協議会、大分県老人福祉施設協議会に加入し会議に参加している。しかし、職員はグループホームの見学や交流を実施できていない。	○	グループホームの会議に積極的に参加すると共に、他グループホームの訪問見学や、ケアの取り組みなど具体的な研修を行うことによりサービスの質を向上するための取り組みが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を希望する時は本人や家族がグループホームを訪問して見学し、希望により馴染めるかグループホームで過ごして体験してもらうことも可能である。また利用開始前には職員が自宅を訪問して生活環境やそれまでの生き方など情報を収集し馴染みの関係を作っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に対して職員は「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えることが多く、利用者からも職員のことを思いやる言葉が自然と出ている。利用者間でも互いに思いやる関係があり、支え合う言葉掛けやお世話をし、職員はそれを見守っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で思いや意向を把握しているが、利用者の入居までの生活歴や好みや趣味など聞き取ったことの記録を行っていない。	○	利用者の聞き取りから得た情報や生活歴など記録として残し、職員間で共有すると共に日常生活でその人らしく生きるために活かされることが求められる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の要望や意見を聞き、日頃の状況を介護支援専門員に伝えて計画作成を行っている。職員は気付きをノートに書き込み職員が確認しあって意見を反映している。また、夜勤はグループホーム以外から交代で担当することから、必ず見える位置に気になる方や新しい利用者の介護計画を貼付して共有できるよう取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヵ月毎の定期的な見直しをしているが、身体や精神に状態の変化が生じた時は随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の通院付き添いができない時は、職員が代わって付き添っている。また、近隣の高齢者に緊急にショートステイが必要となった場合にも、柔軟な受け入れが行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居までに受診していた医院や病院などで希望により引き続き受診を行うことができる。場合によっては訪問診療も受けることができ、病状によって専門医や総合病院を受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合について家族と話し合っているが、グループホーム(法人)としての方針は決定しておらず、看護職員がいないので終末期の対応が困難な状況であると判断している。	○	グループホームとしての方針を決め、入居後早期に本人や家族と話し合い確認し合うと共に、職員は一人ひとりの終末期のあり方を相互に共有し、ケアに当たることが望まれる。また、状態の変化に応じて医師や家族、職員が話し合い段階に応じた取り組みが求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導や声掛けのときは耳元で優しく穏やかな言葉遣いをしている。誇りやプライバシーを傷つけないよう職員間で意識の向上を図っている。また、記録や個人情報には目に付かないよう布で目隠しをし法人としてもプライバシー保護や守秘義務そして尊厳が重要視されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の1日の流れはあり、午前中はデイサービスで地域の高齢者と交流をしながら楽しんでいる。その日の状態によりんびり過したいときは自分のペースでゆったり過ごし、食事時間も体調や気分により変動可能である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝夕は職員と利用者が一緒に料理を作り、同じテーブルを囲んで家庭的な関わりを大切にしており、食後の片付けもできる人が行っている。利用者同士お世話をしたりされたりお互いに支えあって食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隣接しているデイサービスの風呂を利用して、昔馴染みの友人と入浴している。汚れた場合には職員によりシャワー浴や清拭で清潔保持をしているが、グループホーム内の風呂場は車椅子などの収納場所になっている。	○	事情によりデイサービスの風呂を利用することは仕方ない点もあるが、グループホーム内の風呂が利用できるよう取り組むことと、状況に応じた支援が望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の皮むき、台拭き、お絞配り、カーテン引き、新聞取り、花植え、ゴミ袋の名前書きなどできそうな事を探し出し、一人ひとりに力を発揮するよう支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日自分で時間を決めて散歩に出かける人や、隣の建物でデイサービスに来た知り合いの人たちと一緒に日常的に交流をしている。また、季節や時期の催しなどドライブに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼の間は鍵はかけておらず、自由に外に出て行き隣接したグラウンドで散歩を楽しんでいる。職員は利用者が外に一人で出かけてもさり気なく見守り利用者の思うように動ける支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の避難訓練や、災害時のマニュアルを作成して備えているが、地域の支援への働きかけや避難誘導の手順、災害備蓄など用意は出来ていない。	○	地域住民を巻き込んだ避難訓練や避難誘導の具体的な手順に取り組むと共に、災害に備えた食料や備品の準備など対応が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分を1500ccくらいを目安とし食事時やおやつ、入浴後などこまめに摂取している。ホーム内に栄養士がいることで食事のバランスもよく、咀嚼や嚥下機能により調理方法を考え刻み食や柔らかくするなど工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルや炬燵やソファなど好きな場所で過ごすことができ、自由に動ける空間で広くゆったりと過ごすことができる。また、季節の草花を花瓶に挿している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやテーブルや座椅子などがあり家庭的な雰囲気、昔懐かしい箆笥に和の小物を飾りその人らしい居室である。衣類が見やすい所にあり、女性の利用者には化粧水やブラシが置いてあり、ほっとできる空間である。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものにしよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】(アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームふれんど
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	大分県豊後大野市
記入者名 (管理者)	衛 藤 けい子
記入日	平成20年2月23日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現在の理念は、具体性に欠けるため、事業所独自の理念を模索中である。	○	分かりやすい理念に替えるよう計画している。
<input type="checkbox"/>	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の出勤時には必ず理念を確認し、理解するよう努力している。		
<input type="checkbox"/>	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、入居者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念は玄関に掲示している。家族や地域住民に対しては、理念は伝えていない。	○	家族や地域住民に対して、機会あるごとに理念を伝えていきたい。
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	グループホームの周辺には家が無く環境的に難しいが、隣接しているグラウンドにゲートボールを楽しみに来ているお年寄りが尋ねてきたり、同一敷地内の併設デイサービスの入居者や併設保育園園児との交流は日常的に行われている。		
<input type="checkbox"/>	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣接しているグラウンドで行われる地域と併設保育園との合同運動会には、職員は運営を手伝い、入居者はテントの中に呼ばれたり、施設から応援したりして参加している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 入居者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	キャラバンメイトの研修を本年受けている。	○	認知症の理解を得るため、地域の人達に情報の発信をしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を理解することにより、法人の経営理念に基づき提供する福祉サービスの質の向上に向け、全組織的な取り組みを行っている。	○	利用者が「入居して良かった」と思えるよう、日頃から「利用者本位」の福祉サービスの質の向上を目指し取り組む。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議で取り上げられた検討事項について、その経過を話し合い、法人として意見をもらう様になっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは、運営推進会議以外には行き来する機会がない。	○	今後、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する場を作りたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在は、対象者がいないが、職員は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について研修会等で学んでいる。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、入居者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じて学ぶ機会があり、他の職員にも報告研修を行い、虐待が見過ごされることがないように注意を払っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、入居者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
13	○運営に関する入居者意見の反映 入居者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、入居者本位の運営を心がけている。		
14	○家族等への報告 事業所での入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に入居者の様子を報告したり、健康状態に不安があるときは、家族と密に連絡を取り合っている。定期的な広報誌の発行を予定している。	○	広報紙作りに向けて準備中
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には何でも言ってもらえる雰囲気作りに留意している。出された意見は、連絡ノートを活用し職員に徹底している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じて、事業所職員と運営者等の会議を開催しているが十分ではない。	○	日頃から、コミュニケーションを図るよう定期的な会議の開催と、職員自らが企画・提案し実施できるよう組織運営を行う。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 入居者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況の変化により、職員の交代等で対応している。	○	夜勤専門の職員を募集している。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、入居者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者が安心して暮らすことができるよう職員を配置するなどの対策を講じると共に、職員にも働きやすい環境を考えているが十分ではない。	○	有資格者が必須となっている職種があるため、入居者のことを第一に考えた組織運営を行う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として、中・長期的な職員教育・研修計画に基づいた職員を育てる取り組みが出来ていない。	○ 今後、法人として職員一人ひとりに対し、職員教育・研修計画を策定し、職員の質の向上に向けた階層研修(管理者・指導的職員・中堅職員・新任職員)を実施し、職員を育てる取り組みを行う。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人として、同業者との交流は図っているが管理者や職員が地域の同業者とネットワークづくり等には参加できていない。	○ 今後、豊後大野市地域密着型サービス事業者連絡協議会・大分県老人福祉施設協議会(グループホーム専門委員会)等に積極的に参加し、同業者とのネットワークづくりを行うとともに、サービスの質を向上させていく取り組みを行う。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人として、特に管理者や職員のストレスを軽減する取り組みは行っていない。	○ 今後、運営者と管理者・職員との意見交換のできる場を設置するとともに、法人として職員のストレスを軽減する組織体制の整備を行う。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人として、特に職員に対して向上心を持って働き続けるための取り組みは行っていない。	○ 今後、法人として職員が向上心を持って働き続ける為の組織体制の整備を行うとともに、職員の資質向上のための取り組みを行う。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの利用について相談があった時は、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が求めているものを理解し、これまでの家族の苦勞や、サービスの利用状況等をゆっくり聞き、又事業所としてはどんな対応が出来るか事前に話し合いをしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域のケアマネージャーと連携して、入所の希望があれば、入所待機者として登録して対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の入居者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の入居者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら体験入所などの機会を作っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、普段から入居者に教えてもらうという場面が多く持てるように、工夫や声かけに配慮している。。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の日々の様子や状態などを常に家族に伝えることによって、職員と家族と一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族や本人の思いや状況を見極めながら、外出や外泊で家族と一緒に過ごす事を勧めたり、行事に家族を誘ったりしながらより良い関係の継続に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容院に、定期的に家族に連れて行ってもらう入居者がいる。兄弟やお友達が尋ねてきた折には、又、近いうちに尋ねてくれるようお願いしている。		
31	○入居者同士の関係の支援 入居者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに入居者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話を聞いたり相談に乗ったり皆で楽しく過ごす時間や、気の合う同士で過ごせる場面作りをするなど、入居者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となって支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする入居者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする入居者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	折に触れ、本人や家族、関係者からどんな生活をしていたか聞き取るようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、行動や小さな動作から感じ取り本人の全体像を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる入居者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、介護計画に反映させるようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が変化した際には、介護計画の期間終了前であっても検討見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事、水分、排泄等身体的状況及び、日々の暮らしの様子などを記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院等の支援を柔軟に行っている。空室がある場合は、ショートステイの利用が出来るように対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議では、民生委員さんに協力いただいている。年1回の避難訓練実施の時は、消防署のお世話になっている。	○	入居者が地域で安心して暮らせるように、警察やボランティアと意見交換する機会を持ちたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向により、訪問理容サービスを利用している。趣味活動で花屋さんに花を頼み、ボランティアで生け花を教えてもらっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは、利用者の状況に応じて、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と協力し通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらうケースもあり、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、入居者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>入居者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>入居者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の入居者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図ると共に、入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。	
51	○入居者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者に合わせて声を掛け、又表情を読み取って些細なことでも本人が決める場面を作っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながらその日、その時の本人の気持ちを尊重して出来るだけ個別性のある支援を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人や家族の意向により、本人の馴染みの美容院で希望に合わせたカットや毛染めをしてもらえるよう連携を取っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の盛り付け、片付けを入居者と共に行い、職員と入居者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るように雰囲気作りも大切にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家族の意向によりお酒は出していない。時々食べたいおやつを聞き、いっしょに作っていっしょに食べている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣を把握し、トイレ誘導をすることで、トイレでの排泄を促している。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴はデイスーツとの共用しているが、要望があれば支援していきたい。	○ 本人の希望があれば、就寝前に入浴等、支援していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。	
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝のことは伝えるようにしている。	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の財布からお金を出すことで社会性の維持に繋げており、小額を手元に持ってもらっている。	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分や希望に応じて季節を肌で感じてもらう心身の活性につながるよう日常的に散歩、ドライブなどに出かけている。	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の入居者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と連携をとりながら、本人の希望に添うように支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、家族や大切な人に本人自らが電話が出来るように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に来やすい雰囲気作りを心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として、全役職員に対して、法令遵守を徹底させる規程を整備し周知している。また、全ての職員に対する研修等を通じ、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	法人として、全ての職員に対し、利用者の自由な暮らしを尊重するとともに、利用者本位のサービス提供に心がけるケアの実践に取り組んでいる。		
67	○入居者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して入居者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はフロアにいる職員が見守っている。夜間は数時間毎に入居者の様子を確認すると共に、起きられたときにすぐに対応できるよう居場所を工夫している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状況に照らしながら、厳重に保管すべきもの、保管管理が必要なもの、入居者が使うときに注意が必要なものに分けて管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐ為の工夫に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 入居者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	夜勤時の緊急時対応についてマニュアルを整備し周知徹底をしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず入居者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年1回入居者と共に避難訓練を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	自由な外出によりリスクは高くなるが、表情は明るくなっているので、抑圧感のない支援につなげている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており、少しでも食欲や顔色、様子等の変化が見られたときは、バイタルチェックを行い、変化時の記録をつけている。状況により医療受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や処方箋をケースごとに整理し、職員が内容を把握できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材の工夫や運動を働きかけることで自然な排便が出来るよう取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨きの声かけを行い、力に応じて職員が見守ったり介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こりうる感染症についてマニュアルを作成し、全職員で学習し予防対策に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾は漂白し清潔を心がけている。食材の残りは、鮮度や状態を確認し、冷凍したり処分したりしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 入居者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気になるように、玄関の近くにベンチやプランターを置いている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、入居者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご飯の炊ける匂い、なじみの音楽、鍋料理や桜餅など、五感や季節感を意欲的に取り入れる工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った入居者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファ、畳にコタツを置いて居心地の良い空間を作っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、入居者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを入居者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように
		②数日に1回程度
		<input type="radio"/> ③たまに
		④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている
		<input type="radio"/> ②少しずつ増えている
		③あまり増えていない
		④全くない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が
		②職員の2/3くらいが
		③職員の1/3くらいが
		④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が
		②家族等の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

緒方地域の自然に囲まれた豊後大野市社協が運営するグループホームで、僻地保育園・デイサービス・グラウンドが同じ敷地内にあり、いつも子どもや高齢者の笑い声が聞こえ、地域住民の憩いの場となっている。